

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 人文社会学系・助教

氏 名 瀧澤 典子

研究期間 令和3年度

研究プロジェクトの名称	小学校における外国語教育の個別最適化への取組と課題
研究プロジェクトの概要	<p>本研究計画の目的は、令和2年度から小学校高学年において教科化された英語教育の取組状況について、「個別最適化」という観点から実態調査を行うとともに課題を明確化することである。そこから本学の英語教員養成課程の一層の質向上の手がかりを探る。これまで、小学校のいわゆる通常学級を対象とした英語教育の取組に関する研究は数多くなされてきたが、特別な教育的ニーズのある学習者を対象とした研究は、さらなる推進が求められている。後者は、特殊な領域と認識される傾向にあるが、学習者が外国語学習において経験するさまざまなバリアは、特別な教育的ニーズのある学習者に限られるものではない。第二言語習得において、学習タイプや学習方略、言語適正等、個人差要因は多岐にわたり、実際は、通常学級に属する学習者もさまざまな教育的ニーズを抱えている。本研究において特別な教育的ニーズのある学習者を「究極のサンプル」(extreme samples)と位置づけ、その英語学習指導の取組と成果を調査研究することに特色がある。これにより、英語教育における「個別最適化」により柔軟に対応できる英語教員養成のための示唆を得ることが期待される。また、本研究終了後は、さまざまなニーズに対応するための手引書を作成する予定であり、時・場所・場面を問わず、いかなる学習者にも柔軟に対応し得る英語教員ミドルリーダーを本学から多く輩出し、日本の学校における英語教育への拡充に繋げる。</p>
<p>研究成果の概要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p>	<p>本調査研究は令和3年10月中旬から12月にかけて、上越地域の特別支援教育に注力している小学校2校において実施した。研究協力者は小学校5学年および6学年の児童計61名と外国語授業担当教員3名であった。1か月間にわたり外国語授業における「個別最適化」への取組状況を授業観察により記録し、それに基づく担当教員らへのインタビューによりさらに詳細について調査した。</p> <p>授業観察からは、他の授業において特別な教育的ニーズのある学習者が外国語の授業において必ずしも同様ではないことが分かった。むしろ積極的に授業に参加し、高い学習意欲を示している児童もいた。これは、担当教員らがすでにUDL (Universal Design for Learning)に通じるさまざまな学習支援の手立てを講じていることが最も大きな要因であると分析する。これにより、多様な個性を持つ児童がそれぞれ安心して挑戦し、成長できる環境が確保されている。他方、文字を書くことやコミュニケーションに困難を抱える児童、また、外国にルーツを持つ子どもについては、言語活動の時間や机間巡視中に個別指導をしていた。さらに、ロイノートやiMovie等、ICTを活用した学習の個別最適化も行われていた。</p> <p>これらを踏まえたインタビューからは、担当教員3名いずれも特別な教育的ニーズに限らずあらゆる学習者のニーズに応えることを念頭に授業づ</p>

	<p>くりを行っていることが分かった。そして、小学校外国語が全面実施されて2年目となり現在、教員らは児童のより進んだ学習のための効果的指導法を得るための研修の機会を求めている。他校の教員がどのような外国語教育を行っているのか知りたい、また、第二言語習得のメカニズム（理論）や多様な言語活動（実践）を学びたいという発言が多く聞かれた。加えて、外国語学習の動機づけの一つとして海外交流の機会も求めている。</p> <p>最後に、調査研究中、研究協力者以外の教員から、聴覚に障害を持つ児童への外国語教育について相談を受け、また、教員研修ディスカッションに同席した際には、教員の特性をいかした型にとられない外国語授業デザインの可能性について問題提起がなされ、今後の研究課題となった。</p>
<p>研究成果の発表状況</p>	<p>○ 第22回小学校英語教育学会（JES）四国・徳島大会（2022年7月17-18日）においてオンライン口頭発表予定</p> <p>○ 『小学校英語教育学会誌』（JES Journal）に論文投稿予定（2022年10月下旬）</p>
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<p>当該研究者が本大学で担当する大半の授業において、教育現場の個別最適化の取組と課題について言及し、多様な学習者のニーズへの学生たちの理解を深めるとともに、第二言語習得研究の知見に基づき考えられる対応の手立てを例示している。また、2022年5月から月1回、教職員のための自主セミナー「英語授業 de インクルーシブ教育 実践研究会」を開催し、本調査研究の成果を還元していく。さらに、海外交流の機会については、本研究者の友人を通じてマレーシアの小学校とビデオレターを交換することとなった。</p>

【提出期限】 令和4年3月31日（木）：厳守